

令和7年度 第3回学校運営協議会 議事録
【学校評価部会・キャリア部会・地域連携部会】

- 1 日 時 令和8年3月11日（水曜日） 16時00分～17時00分
- 2 会 場 県立横浜清陵高等学校 会議室
- 3 出席者 学校運営協議会委員 5名（3名欠席）
県立横浜清陵高等学校教職員 11名（ 1名欠席）
- 4 協議内容

（1）学校評価部会（全体会）

1. 近況報告（校長）

- ・本日、横浜南地区探究的学習発表会が無事終了。本校からは2年次1名と1年次4名が代表者として参加し発表を行った。
- ・県整体的に入学者選抜試験の倍率が低下している。教員を筆頭に生徒の自治を進め取り組んでいる。

【委員からの意見および質問】

- ・総合的な探究の時間について、生徒の視点（課題発見）が成果に結びついた点が非常に良かった。

2. 各グループ業務内容の学校評価報告（事務局）

○学習支援グループより

- ・11月に公開研究授業を実施。来年度に向けて修正点を改善していきたい。

○生徒支援グループより

- ・服装や頭髪といった生徒の身だしなみについて、校内ではできているが、登下校時の遅刻指導や支援の必要がある生徒が増えてきている。必要な支援に繋がっているが、相談枠の空きがなくタイムリーに対応できていない課題もある。
- ・サポートドックで支援を必要とする生徒の早期発見に繋がり、その結果SCやSSWの相談枠がすぐに埋まっている。
- ・全国的に報道されているように、SNS関係のモラル指導を充実させていく必要がある。いじめの定義の変更について教員への研修を行った。

○活動支援グループより

- ・部長会が活性化してきたので、次年度への引き継ぎをしていきたい。
- ・文化祭については、防犯の観点から今回の対応となったが、保護者入場については今年度よりよい方策を検討中である。

○キャリアガイダンスグループより

- ・昨年度大学進学率が80%を超えた。今年度は集計中であるが、85~90%を超えるのではないかと。大学受験希望者のうち、総合型入試に多くが流れている。総合型入試で不合格となる生徒が増えている。落ちると受かるまで挑戦し続けるので、教員側の負担が大きくなっている。総合型入試でも学力検査が課されるようになったので、基礎学力をつけさせると共に教員への意識改革が必要である。また、生徒への支援策を考えていく必要がある。

○企画広報グループより

- ・特になし。配付資料のとおり。

○管理運営グループより

- ・危険箇所の点検や教育環境の改善があった。事務の尽力があり改善が見られた。声を上げやすい職場づくりに努めたい。
- ・時間外労働時間は4月と10月を除いて減少している。10月は文化祭や総合型選抜の指導で労働過多になることが原因と考えている。また、管理職の時間外勤務が多い。

【委員からの意見および質問】

○教育課程・学習指導

- ・課題や改善方策について中間報告と変わっていない。達成できた項目および達成できなかった項目についても明確にし、来年度の改善に繋げてほしい。また、具体的にどのような検証方法で検証をするのか明記してほしい。
- ・前回見学させていただいたが、公開研究授業、研究協議の取り組みが充実しており、継続してほしい。

○生徒指導・支援

- ・校内でジャージを履いている生徒が劇的に減少した点が素晴らしい。
 - ・生徒からの不満反発はあったのか。職員全体で同指導を継続できるとよい。
 - ・生成AIなどの利用も進む中、情報モラル教育の充実は必要と考える。
 - ・生徒会や部活動の生徒主体の運営体制は、高い評価を得ていることもあり、継続・発展を期待する。
 - ・文化祭保護者入場に対しての検討に感謝。教員の不足が課題であれば、PTAも参加をして一緒に行事を作り上げていきたい。
 - ・文化祭が地域への開放がなく感じる。検討してほしい。地域の祭りなどにも参加をしてもらえるとより交流ができるのではと考える。
- 盗撮の観点から今年度の対応となった。仕入れでは地域の店と繋がることができたが、来場については閉鎖的となり、矛盾が生じているので検討をしたい。

○進路指導・支援

- ・学習塾のチラシに横浜清陵高校の名前が掲載されるなど、塾が注目し出し、学校として評価され始めているのではないかと。今後、進路実績を益々伸ばしてほしい。
- ・「魅力と特色ある学校づくりについてのアンケート」A-2、A-8の肯定的回答が、95%というのは、キャリア教育を推進してきた成果が表れていると考える。
- ・インターンシップの参加人数が増えており、今後も多くの生徒が参加することを期待する。
- ・本日の、横浜南地区総合的な探究の時間の発表を見学して、大人にはない視点から物事を捉え充実した発表を行っており感心した。

○地域との協働

- ・地域を意識した授業内容などがあれば、それらを共有してほしい。さらにそれを継続、発展させていくことを期待したい。
- ・普段あまり接点のない小学校と高校との連携をどのように取っていくかが課題と考えている。
- ・吹奏楽部の生徒が園児との話し合いの機会を持つなど、演奏以外での関わりがあった点が非常に良かった。生徒自身で想像する教育が行われている点の評価をしたい。交流が発展してきている。

○学校管理・学校運営

- ・職員研修はどうしても伝達型になりがちだが、対話を取り入れた研修は意義があると考えられる。職員研修も「主体的・対話的で深い学び」であってほしい。
- ・どのような生徒が入学してくるのか分析調査を行い、戦略的な広報活動の検討が求められる。何もしないでいるということは避けなければならない。
- ・1.08倍と全県的な平均倍率を下回ったことに危機感を感じている。
→私立無償化、クラス数が増えたことによる影響。来年度、再来年度の倍率変動がカギとなると考えている。

3. 令和7年度 魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケートについて

(企画広報グループより)

- ・前回意見に挙げたので、今回はアンケート結果の比較資料を作成した。
- ・生徒対象のアンケートについて、ほとんどの項目について、昨年度より好意的な回答だった。
- ・保護者対象のアンケートについても好意的な意見が多い点が良かった。保護者へは記述の質問を設けたことで、回答数は少ないが、単なる数字ではなく意見が見られるようになったのが良かった。

【委員からの意見および質問】

- ・ A-8「学校での保護者会や社会人のための講座、施設開放など、学校での活動に参加できたと思いますか。」という設問については、PTA 主催で生徒へなにかできないか。来年度取り組みをする機会があるのであるのであれば、参画していきたい。
- ・ 部活動の研修会など保護者に案内が届いていない場合がある。すぐーるの活用でより保護者に情報が届くとよい。

4. 令和7年度 後期授業評価結果について（学習支援グループより）

・項目 A～C の評価と理解度について

資料によると、1年次・2年次ともに項目 A（ねらいと振り返り）、B（他者の考えの共有）、C（自分の考えをまとめる場面）の「評価 4+評価 3」の合計はいずれも 90%を超えており、非常に高い水準にある。項目 G（既習事項との関連付け）において、「1」を選択した生徒は1年次・2年次ともにわずか 0.9%であることから、ほとんどの生徒が授業内容を理解できていると捉えることができる。

・項目 D の改善状況について

項目 D（身に付いたことの実感）の「評価 4（かなり当てはまる）」の割合は、1年次で 38.4%から 43.7%へ、2年次で 39.4%から 45.7%へと、それぞれ約 5～6 ポイント上昇している。資料内でも、前期に比べて生徒の「成長の実感が増加している」と言及されている。

・学年別の傾向とアウトプットの課題について

総合的に見ると、2年次は1年次に比べて項目 G（関連付け）などの肯定的な評価（4+3）の割合がわずかに低くなっている。（1年次 90.5%に対し 2年次 89.3%）。また、3年次では進路状況の差などにより、項目 D 以外の全項目で評価が低下するという傾向が見られる。

資料では、1年次において項目 F（知識を基に考えをまとめる）や G（関連付け）といった、いわゆる「アウトプット」に関する取り組みをさらに強化し、自分の考えをまとめられる授業を実践していく必要がある。2年次についても、項目 G の評価が前期より 4.3%低下しており、「学んだことを他と結びつけられる授業」に向けた改善が求められている。

【委員からの意見および質問】

- ・ 事前に質問項目がわかる資料の準備をしてほしい。概ね良好と生徒は受け止めていると解釈できる。

5. 校長からの挨拶

・ 校長が中学校へ訪問するという広報活動の仕方もあるが、まずは校内の活動の充実を図りたい。地域交流＝地域へのアピールとは考えていない。そういった活動に参加をしていることに関する生徒間での共有や相互のレスポンスが広がることで、結果的に学校外への発信に繋がっていくと考えている。

- ・ 令和8年度 第1回学校運営協議会は5月下旬開催予定である旨確認し、会議終了。

以上